ビジョンオフィス通信 **変革するサウジアラビア**

Vol.7　～ガソリン価格にみる“国民の痛みを伴う改革”～

日・サウジ・ビジョンオフィス・リヤド　佐々木　宏行

ガソリンの小売価格を月ごとに見直すことを発表

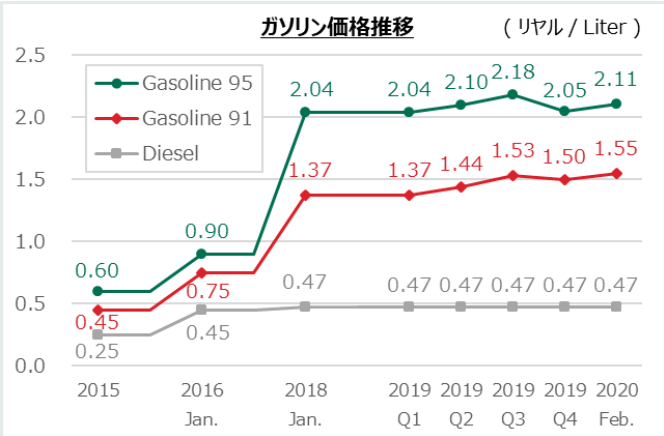
サウジアラムコは、2020 年 2 月より、ガソリンを含む燃料の小売価格の見直しを月ごとに実施すると発表した。2019 年 4 月以降は、石油の輸出価格の変動に伴い四半期ごとに見直しが実施されていたが、2 月以降は、毎月 10 日に価格が発表され、翌日 11 日に市場価格へ反映されることとなった。サウジ政府は、2015 年、16 年の財政収支の悪化を受け、政府補助金の削除を企図し、ガソリン価格を含む公共料金の値上げに踏み切っている。

サウジアラビアの財政収支　（1 リヤル＝約 30 円）

財政収支は、2014 年以降財政赤字となっており、特に 2015 年は石油価格下落の影響もあり、3,950 億リヤルの財政赤字となった。
2020 年は、景気刺激を優先し、1,870 億リヤルの赤字予算が組まれているが、歳出面における補助金の削除や、歳入面における税金の導入が Vision 2030 発表以降、実施されている。

2015 年と比較し 3 倍となるガソリン価格

ガソリン価格は、2016 年と 2018 年 1 月に値上げが実施され、レギュラー(Gasoline 91)、ハイオク(同 95) 共に値上げ前の 3 倍強の価格となる。特に 2018 年は、2 倍前後となる大幅な値上げを実施しており、国民生活にも大きなインパクトを与えた。一方、ディーゼルは輸送部門への影響を配慮し、2018 年 1 月以降据え置きとなっている。



（サウジアラムコの公表データより日サビジョンオフィス作成）

着実に遂行される“国民の痛みを伴う改革“

女性の自動車運転の解禁や観光ビザの導入等、社会面の改革が注目を集めることが多いが、財政収支改善に向けた“国民の痛みを伴う改革”も着実に遂行されている。上記ガソリン価格を含む公共料金の値上げをはじめ、2017 年 6 月には物品税、2018 年 1 月には VAT の導入が実施されており、過去に手を付けてこなかった領域の改革にも踏み込んでいる。

国民の負担が増す改革の円滑な導入は、「社会面を中心とした改革進捗の実感が、痛みを伴う部分を含めた改革の必要性の理解促進に繋がっている」ことが理由ではないかと考えられる。改革の進捗を日々肌で感じられることが、国民の負担が増す改革の受入れを容易にしていると推測される。“国民の痛みを伴う改革“は、Vision 2030 の達成において避けては通れない道であり、今後も前向きな改革とのバランスを取りつつ、遂行されることが期待される。（2020 年 2 月）

お問合せ先

日・サウジ・ビジョンオフィス・リヤド
Address: 5th Floor, Council of Saudi Chamber Builg, Riyadh 11614
Tel: +966-11-219-9155　E-mail: infovo@sj-visionoffice.jetro.go.jp
Website: https://www.jetro.go.jp/sj-visionoffice/

本資料は、執筆者の個人的な見解であり、日・サウジ・ビジョンオフィス・リヤドの公式な見解を示すものではありません。